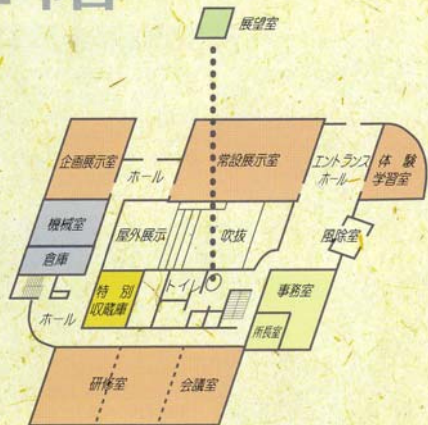


2階



施設の概要

地名・地番 沖縄県中頭郡西原町字上原193番地の7
 敷地面積 16,395.95㎡
 地域・地区 都市計画区域内
 用途地域 第1種中高層住居専用地域
 建蔽率 60%
 容積率 200%
 防火地域 規定なし
 前面道路 県道29号線 幅員12m

工事費

総工事費 1,722,537,750円

構造・規模

構造 鉄筋コンクリート造
 規模 地上2階
 建築面積 3,688.29㎡
 延床面積 4,179.88㎡

工期

着工 平成10年10月9日
 竣工 平成11年10月27日

沖縄先史文化の宝庫
 明日への扉が開かれる



沖縄県立埋蔵文化財センター

沖縄県立埋蔵文化財センター

〒903-0125 沖縄県中頭郡西原町字上原193番地の7
 TEL 098-835-8751・8752 FAX 098-835-8754

開所時間 AM9:00 ~ PM5:00 (入所は4:30まで)

休所日 毎週月曜日
 (月曜日が国民の休日に当たる場合は翌火曜日まで休所)
 国民の祝日(こどもの日、文化の日を除く)
 年末年始(12月28日~1月4日)
 慰霊の日(6月23日)

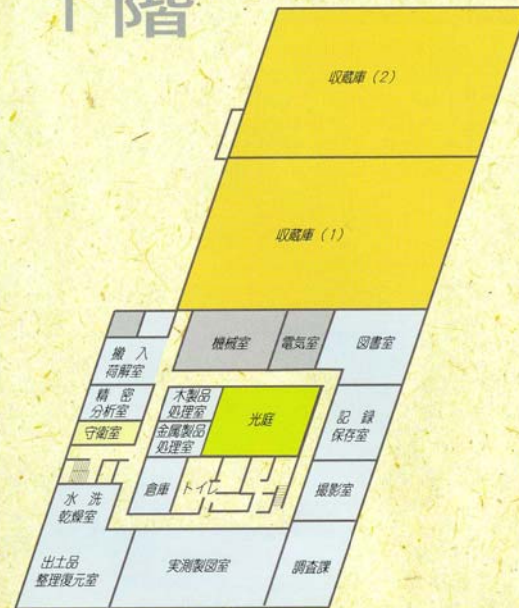


交通案内

- 沖縄自動車道 西原ICより車10分
- 路線バス 系統97番(琉大線)「琉大附属病院前」バス下車 徒歩3分



1階



展望室	28.66㎡	展望室	28.66㎡
2階	1,296.55㎡	普及・啓発	741.65㎡
1階	2,831.62㎡	調査・研究	921.31㎡
合計	4,156.83㎡	収蔵	1,389.46㎡
		管理	87.18㎡
		機械室等	1,011.62㎡
		合計	4,179.88㎡

区分	室名	面積(㎡)	区分	室名	面積(㎡)
展望室	展望室	14.33	収蔵	蔵庫	1,319.76
展望室	階段室	14.33	搬入	荷解室	52.04
小計	小計	28.66	木製	製品処理室	33.89
普及・啓発	エントランスホール	161.24	金属	製品処理室	35.01
常設	学習室	64.80	精密	分析室	40.32
企画	展示室	170.84	水洗	乾燥室	57.01
研究会	展示室	87.80	出土	整理復元室	124.71
特別	講義室	170.58	実測	製図室	206.84
事務	収蔵庫	69.70	調査・研究	調査課	101.10
所	事務接長室	45.96	記録	保存室	85.19
給湯	室	20.63	図書	室	118.21
室	室	20.59	機械	室	132.87
給湯	室・トイレ等	398.02	給湯	室・トイレ等	480.73
小計	小計	1,296.55	小計	小計	2,854.67
合計	合計	4,179.88㎡(展望室を含む)			

設立の趣旨

海に囲まれ、豊かな自然に恵まれた沖縄県は、沖縄諸島・宮古諸島・八重山諸島の三諸島で成り立っています。三諸島には先人の生活の足跡を物語る遺跡（埋蔵文化財）が、約2,500ヶ所以上あります。これらの遺跡は、沖縄県の歴史と文化を解明していく資料として重要であります。

沖縄県は去る大戦では、県民を巻き込んだ地上戦が展開され首里城など多くの国宝が砲撃を受けて失われました。埋蔵文化財は土中に埋もれていたことから、幸いにも戦火を免れることができました。本土復帰直後から大型開発や海洋博覧会プロジェクトなどの大規模な事業が始まり、開発事業に伴う遺跡の発掘調査が急増しました。そのため貴重な出土遺物や記録が年々増加することとなり、これらを集中的に効率よく管理できる施設の建設が要請されるようになりました。

埋蔵文化財センターは、こうした県民の要請のもとに埋蔵文化財に係る調査、研究、整理・保管、教育・学術及び文化の発展に資するための施設として設置されたものです。

(平成12年4月開所)

沿革

- 平成7年3月 沖縄県立埋蔵文化財センター基本設計完了
- 平成7年11月 沖縄県立埋蔵文化財センター実施設計完了
- 平成10年10月 沖縄県立埋蔵文化財センター建設工事着工
- 平成11年10月 沖縄県立埋蔵文化財センター建設工事竣工
- 平成12年4月 沖縄県立埋蔵文化財センター開所

業務内容

1. 埋蔵文化財の調査
遺跡の発掘調査と調査報告書の作成に関すること。
2. 出土資料の整理と収蔵
出土遺物・調査記録等の分類整理・保存管理に関すること。
出土遺物の科学的保存処理に関すること。
3. 埋蔵文化財の研究
調査方法や調査技術の研修・資料収集等、埋蔵文化財の研究に関すること。
4. 埋蔵文化財保護思想の普及啓発
現地説明会・出土品の展示・公開講座・遺跡見学等の実施、所報の発行、埋蔵文化財についての相談等、保護思想の普及と啓発に関すること。
5. 資料の整理
調査記録の分類・整理・貸出し等に関すること。

組織

沖縄県立埋蔵文化財センター



常設展示室 発掘調査で明らかになったことを9つのテーマにした展示と2000年前の琉球のムラを再現した模型を展示しています。



ヤコウガイ製貝匙 (弥生時代後期、今から約1,800年前)



面縄前庭式土器 (縄文時代中期、今から約4,000年前)



明青花牡丹唐草文大壺 (中国) 15世紀前半 (今から600年前)



宮古・八重山諸島最古の下田原式土器 (今から3,500年前)



紅釉水注 (中国元末明初) 14世紀後半 (今から630年前)

遺跡の調査 (発掘調査から報告書作成まで)

遺跡は私達の先祖が生活してきた場所であり、当時の社会の様子を伝えてくれる大切なものです。

昔の人々が生活した住居跡や人々によって築かれた石積みなどを遺構といいます。土器・陶磁器など動かせるものを遺物といいます。遺跡の発掘調査によって、もたらされた遺構や遺物の情報から昔の生活を明らかにし、その成果を未来の人々に伝えていくことが大切です。



表土の除去

現在の地面より下には大昔の地表が残っています。土の様子を見ながら遺物の含まれる地層まで、重機で薄く少しずつ慎重に上の土砂を取り除きます。



遺構の確認

遺物の含まれている地層(遺物包含層と呼びます)を取り除き、遺構を探します。特に、遺物がたくさん出土している場所を注意深く見ていくと、土の色が変わっていることに気がつきます。



遺構の調査

土の色が変わっているところを移植ゴテや竹ベラで掘り下げていくと、住居跡や柱の跡などの輪郭がきれいに出てきます。土器が押しつぶされた状態で見つかることもあり、遺構の時代を決めるカギとなります。



遺構の実測

掘り終わった遺構や地層は、一つ一つ慎重に写真を撮り、図面に記録していきます。通常は、人の手で遺構の大きさ・幅・深さなどを測りますが、小型ヘルコプターやコンピューターなどを使用して測量することもあります。この作業で屋外の発掘調査は終了します。



水洗い・注記

掘り出した遺物は、ブラシやハケで水洗いして土を落とし、形や文様がよく見えるようにします。乾燥後、一つずつ遺跡名・遺物名・層位などを記入して、遺物を整理します。遺物は材質・かたちによって分類されます。



接合・復元

昔の人が捨てた土器は、割れたものや欠けたものが多いので、あちらこちらに散らばっています。同じ破片どうしを接合し、できるだけ元の形に復元します。どうしても破片が足りないときは、石膏などで補って形がわかるようにします。



実測

報告書に載せる土器や石器について、大きさと形、文様などを細かく観察して実測図を作成します。土器は文様の種類や付け方、粘土の積み上げ方を、石器は形や使用した痕跡、打ち欠いた順番など写真ではわからない情報を注意して書きます。



報告書の発行

発掘調査を行った遺跡の記録は、調査報告書にまとめられます。この段階で、遺跡の発掘調査は終了します。この中には、遺構や遺物の出土状況と出土した遺物の分析結果、実測図・写真など調査の結果が盛り込まれます。

